

尻屋地先における磯根資源調査

(要 約)

小田切明久・足助 光久・能登谷正浩

最近、尻屋地先において潮間帯に移動してくるアワビが極端に少くなり、一方当地先のかかなりの範囲にコンブの着生がみられるという指摘がなされていたが、今回、当地先の磯根資源について調査する機会が得られたのでその状況について概略を述べる。

本調査に際して御協力いただいた尻屋漁業協同組合及び尻屋漁業研究会の各位に厚く御礼申し上げます。

1. エゾアワビについて

- 1) 水深別 1 m 当りの生息数は、水深 5 m 、 10 m 、 15 m 及び 20 m でそれぞれ 2.8 個 (344 g)、 2.7 個 (359 g)、 1.9 個 (242 g) 及び 1.2 個 (164 g) であり、水深 $5\sim 10\text{ m}$ で多い傾向がみられた。また全調査点の平均生息数は 2.1 個 (274 g) であった。
- 2) 全採集個体 107 個の殻長範囲は $68\sim 126\text{ mm}$ であったが、そのうち漁獲制限殻長 90 mm 以上の個体の割合は 63.6% 、平均殻長は 93.7 mm であった。
- 3) 当地先のエゾアワビは $7\sim 8$ 年で漁獲制限殻長 90 mm に達し、そのときの体重は約 112 g であった。

2. ウニについて

- 1) 本調査で採集されたウニはすべてキタムラサキウニであり、その平均生息数は 1 m 当り 3.4 個 (465 g) であった。
- 2) 全採集個体 175 個の殻径範囲は $40\sim 94\text{ mm}$ であったが、殻径 70 mm 台の個体の割合が約 53% と著しく多かった。また採集個体全部の平均殻径は 66.4 mm であった。

3. コンブ・ワカメについて

- 1) 1年コンブの着生は主としてミサゴ島～トシトリ島間の水深 $5\sim 10\text{ m}$ 及び岸島付近の水深 5 m でみられ、 1 m 当りの着生量の最高は約 4 kg (99 本) であった。
- 2) 2年コンブの着生は主としてミサゴ島及び岸島付近の水深 $5\sim 10\text{ m}$ でみられ、 1 m 当りの着生量の最高は約 7 kg (33 本) であった。
- 3) ワカメの水深別 1 m 当りの着生量は水深 5 m で 311 g 、水深 10 m で 70 g と少なかった。

以上の結果と過去の調査結果からすると、当地先のエゾアワビの成長は経年的に良くなっており、当地先における餌料条件が好転しつつあることがその要因ではないかと考えられた。

詳細については「尻屋地先における磯根資源調査 青水増資料 S・58-N.1」を参照されたい。